

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	国語	学年	3	教科書	論理国語(大修館)
科目	論理国語	クラス	βコース	副教材	学習課題ノート(大修館) クリアカラー国語便覧(教研出版)
		単位数	3	担当者	鈴木 果葉子

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり身に付ける。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わるとする態度を養う。				
学習方法	授業において自ら考え、また、周りの生徒と協働して考える活動を行う。 プリントや副教材等を利用して、授業内容についての理解を深める。 毎時間小テストを実施し、読書力の定着を図る。 自らの学習を振り返り自己評価するとともに、相手の意見や主張について考え相互評価する。				
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨			
	a 知識及び技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。			
	b 思考力・判断力・表現力	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉の効果的に使おうとしている。			
定期考査については、上記a, b の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	【第Ⅱ部】 1 自己と他者 『贈り物』としてのノブレス・オブリージュ』	・筆者の発想のしかたや論の展開の特徴を読み取る。 ・『贈り物』についての筆者の主張をふまえて、自己と他者について考える。	○	○	○	a 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりにするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。 b 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。 c 学習課題に沿って、一般的な解釈と、筆者の解釈の違いを意識しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査 ⑤外部模試
	【第Ⅱ部】 1 自己と他者 『相手を意識して書く』	・相手に応じた適切な表現を選んて書く。 ・語彙の難易度やニュアンスに注意して書く。	○	○	○	a 教材文の主旨を変えないように、相手に即した語彙・表現に書き換えている。 b 「書くこと」において、相手の予備知識に応じて情報を整理し、文章構成を工夫して、主旨を的確に伝えている。 c 成果物を読み合い、学びの成果を言葉で表現しようとしている。	
前期末	【第Ⅱ部】 3 メディアの変容 『消費されるスポーツ』	・具体例と筆者の主張との関係の確かならえる。 ・スポーツとメディアの関係についての考えを深める。	○	○	○	a 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりにするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 b 「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 b 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。 c 学習課題に沿って、具体例に注目しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査 ⑤外部模試
	【第Ⅱ部】 4 言葉の探究 『人を指す言葉—自称詞・対称詞・他称詞』	・根拠に注目しながら、筆者の主張を読み取る。 ・日本語の特徴について考え、言葉に対する理解を深める。	○	○	○	a 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりにするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 b 「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 b 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。 c 学習課題に沿って、論理の展開に注目しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。	
後期中間	【第Ⅱ部】 5 政治と社会 『多数決を疑う』	・筆者が指摘する問題点や代案の主張を読み取る。 ・意思決定のしくみに興味をもち、社会制度のあり方を考える。	○	○	○	a 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりにするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。 b 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。 c 学習課題に沿って、筆者の問題意識を把握しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査 ⑤外部模試
	【第Ⅱ部】 7 環境へのまなざし 『生物多様性の意思』	・具体例との関係に注意しながら筆者の主張をとらえる。 ・生物多様性と文化や社会との関係について考えを深める。	○	○	○	a 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりにするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。 b 「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の文章や資料をもとに、必要な情報を関係づけて自分の考えを広げたり深めたりしている。 c 学習課題に沿って、具体例と論の関係に注目しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。	
後期末	大学入試問題演習 二次試験対策	共通テスト対策 二次試験対策	○	○	○	a・b・c: 共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④外部模試

## 評価の量み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	国語	学年	3	教科書	標準古典探究(第一学習社)
科目	古典探究	クラス	βコース	副教材	重要古語315(桐原書店) ミクサ古典文法(数研出版) 基礎古典1+(尚文出版)
		単位数	2	担当者	鎗水 果菜子

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語を理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ることができる。</li> <li>・目的など場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させることができる。</li> <li>・必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させることができる。</li> <li>・近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させることができる。</li> <li>・言語文化及び言葉の特徴や決まりなどについての理解を深め、知識を身に付けることができる。</li> </ul>	
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業において自ら考え、周りの生徒と協働して考える活動を行う。</li> <li>○プリントや副教材等を利用し、授業内容についての理解を深める。</li> <li>○毎時間小テストを実施し、語彙力の定着を図る。</li> <li>○自らの学習を振り返り自己評価するとともに、相手の意見や主張について考え相互評価する。</li> </ul>	
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識及び技能	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付け、文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
	b 思考力・判断力・表現力	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。
定期考査については、上記a, bの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第Ⅱ部 物語(二) 源氏物語「光る君誕生(桐壺)」	・歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。 ・長編物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確にとらえる。	○	○	○	a: 語句の量を増やし、語彙を豊かにし、敬語表現に関する文語のきまりへの理解を深めている。 b: 長編物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確にとらえている。 c: 今までの学習を生かして長編物語をよみ、人物造形・心理描写・和歌の役割などに注意しながら、積極的に内容をとらえようとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ワークシート ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査 ⑤外部模試
	第Ⅱ部 項羽と劉邦 四面楚歌(史記)	・追い詰められていく項王の心境を読み取り、人間の生き方についての考えを深める。 ・史伝という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確にとらえる。	○	○	○	a: 語句の量を増やし、語彙を豊かにしながら、訓読のきまりについて理解を深めている。 b: 追い詰められていく項王の心境を読み取り、人間の生き方についての考えを深めている。 c: 積極的に史伝を読み、追い詰められていく項王の心境をとらえようとしている。	
前期末	第Ⅱ部 日記 更級日記「門出」	・日記文学という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確にとらえる。	○	○	○	a: 語句の量を増やし、語彙を豊かにし、文語のきまりについて理解を深めている。 b: 日記文学という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確にとらえている。 c: 内容を的確に捉えるために、文語の決まりを理解し、積極的に説明しようとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査 ⑤外部模試
	第Ⅱ部 諸家の思想 孟子 仁人心也/民父母	・思想を述べた文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ・『論語』と並ぶ儒家の古典である『孟子』を読み、古代中国思想について理解する。	○	○	○	a: 思想を述べた文章の特徴について理解を深めている。 b: 思想を述べた文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養おうとしている。 c: 『孟子』を読み、孟子が理想とする政治と「仁」との関係を粘り強く説明しようとしている。	

後期中間	第Ⅱ部 物語(三) 平家物語「能登殿の最期」	・軍記物語を読んで、登場人物の行動と、それを支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深める。 ・我が国の文化の特質について理解を深める。	○	○	○	a: 古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深めている。 b: 軍記物語を読んで、登場人物の行動と、それを支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深めている。 c: 軍記物語を思想的背景・歴史的背景に注意しながら読み、積極的に自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査 ⑤外部模試
	第Ⅱ部 名家の文章 売油翁	・技術の習熟について述べた文章を、引用された語を参考にして読み、ものの見方や考え方を深める。 ・作品の成立背景や他作品との関係をふまえて、内容の解釈を深める。	○	○	○	a: 我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深めている。 b: 技術の習熟について述べた文章を、引用された語を参考にして読み、ものの見方や考え方を深めている。 c: 作者が主張している内容を、引用された語をふまえながら進んで説明しようとしている。	
後期末	大学入試問題演習	・共通テスト対策問題演習 ・二次試験対策演習	○	○	○	a・b・c: 共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④外部模試

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	地理歴史	学年	3	教科書	詳説世界史探究 (山川出版社)
科目	世界史特講	コース	βコース	副教材	グローバルワイド最新世界史図表 (第一学習社)
		単位数	文系4・理系2	担当者	吉田 大樹

学習目標	(1)現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。 (2)地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する。また、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会を実現するための課題を主体的に解決しようとする態度を養う。日本や他国の文化を尊重することの大切さを自覚し、深める。				
学習方法	(1)単元にテーマを設定し、課題探究的な学習をベースとする。副教材と小テストで日常的に知識理解を図る。 (2)単元の学習に、学習内容が可視化できる教具を活用したり、ICT機器を活用したりしながら学習する。 (3)主体的かつ対話的で深い学びを促すために、ペアワークやグループワークを随時用いて学習する。 (4)現代における社会的事象の「見方・考え方」と、歴史的な「見方・考え方」をつなげられるように学習する。 (5)日本との関連や、現代社会におけるグローバルな課題と、世界の歴史の推移との関わりを学習する。				
学習評価	評価の観点		当該科目の評価の趣旨		
	a	知識及び技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。		
	b	思考力・判断力・表現力	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。		
	c	主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		
定期考査については、上記a, b, cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第9章 大交易・大交流の時代	1 アジア交易世界の興隆 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の発見	○	○	○	a: 近世世界の社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を収集し、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 近世世界の社会や文化の特色から課題を見だし、その過程や結果を適切に表現している。 c: 近世世界の社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②課題・レポート等の提出 ③定期考査と書き直し(復習) ④外部模試
	第10章 アジア諸帝国の繁栄	1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域	○	○	○		
	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	1 ルネサンス 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 4 蘭・英・仏の台頭 5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想	○	○	○		
前期末	第12章 産業革命と環大西洋革命	1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配 4 中南米諸国の独立	○	○	○	a: 近代世界の形成と社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめている。 b: 近代世界の形成と社会や文化の特色から課題を見だし、様々な事柄と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 近代世界の形成と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②課題・レポート等の提出 ③定期考査と書き直し(復習) ④外部模試
	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	1 ヴェーン体制とヨーロッパ(政治・社会)の変動 2 列強体制の動向とヨーロッパの再編成 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀前半の欧米と非欧米文化の繁栄	○	○	○		
	第14章 アジア諸地域の動向	1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動	○	○	○		

後期中間	第15章 帝国主義とアジアの民族運動	1 第2次産業革命と帝国主義 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 3 アジア諸地域の民族運動	○	○	○	a: 19世紀末から第二次世界大戦にかけての世界の歴史の特色についての基本的な事柄を、国際関係と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめている。 b: 19世紀末から第二次世界大戦にかけての世界の歴史の特色について、課題を見だし、国際関係と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 19世紀末から第二次世界大戦にかけての世界の歴史の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②課題・レポート等の提出 ③定期考査と書き直し(復習) ④外部模試
	第16章 第一次世界大戦と世界の変容	1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動	○	○	○		
	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の崩壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成	○	○	○		
	第18章 冷戦と第三世界の台頭	1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動向	○	○	○		
	第19章 冷戦の終結と今日の世界	1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界 4 現代文明の諸相	○	○	○		
	地球世界の課題の探究		○	○	○		
後期末	共通テスト演習 二次試験対策		○	○	○	演習問題の取り組みを通して、知識及び技能の定着に専心し、史資料を基に思考・判断を深めながら、歴史を見る目を養う。	①演習の出来ばえ ②演習問題等の書き直し(復習) ③外部模試

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	40	0	40
	思考力・判断力・表現力	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	公民	学年	3	教科書	政治・経済(東京書籍)
科目	政治経済	コース	βコース・文系	副教材	要点マスター政治・経済 整理と演習(東京書籍)
		単位数	4	担当者	竹谷 涼太

学習目標	(1) 社会のグローバル化の進展に伴い、多様に変容した政治・経済・社会のしくみに関する基本的な知識と技能を身に付ける。 (2) 現代社会における世界的な枠組みや国内のしくみに関する知識や多くの情報を的確に組み合わせ、現代社会を生き抜く思考力・判断力・表現力を伸長する。 (3) 現代社会における自律した社会人として、自ら課題を発見し解決に導く主体的かつ協働的な人間性を養う。	
学習方法	(1) 課題探究型学習をベースとする(新学習指導要領を意識する)。 (2) 単元の基軸となる問いを設定し、生徒自身による「問いを表現する」機会も設定する。 (3) 「アクティブ・ラーニング」(主体的・対話的で深い学び)の視点を導入する。 (4) 社会的な事象における「見方・考え方」や歴史的な「見方・考え方」を働かせる。 (5) 「政治・経済」を意識した歴史学習を展開する。	
学習評価	当該科目の評価の趣旨	
	a 知識・理解	現代の社会的な事象と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
	b 思考・判断・表現	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的な事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
	c 主体的に学習に取り組む態度	現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参画・協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。
定期考査については、上記a, b, c の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 現代の政治【1節】 民主政治の基本原則	1 民主政治の成立 2 基本的人権の確立 3 現代の民主政治 4 世界のおもな政治体制	○	○	○	a. 現代の国内政治及び国際政治に関して、基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。 b. 現代の国内政治及び国際政治から課題を見だし、公正な判断の下、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c. 現代の国内政治及び国際政治に対する関心を高め、民主政治の本質や現代政治の特質、また、国際政治の特質や国際紛争の諸要因を意欲的に追求し、望ましい政治の在り方や主権者としての在り方、また、日本の役割を考察しようとしている。	①授業への関心・意欲(グループワーク等での発言・発表含む) ②課題提出(授業プリント、ワークシート等の取組状況) ③定期考査(ほか小テスト等含む) ④外部模試(進研模試等)
	第1章 現代の政治【2節】 日本国憲法の基本原則	1 日本国憲法の制定と基本原則 2 基本的人権の保障 3 平和主義	○	○	○		
	第1章 現代の政治【3節】 日本の政治機構	1 国会と立法 2 内閣と行政 3 裁判所と司法 4 地方自治	○	○	○		
	第1章 現代の政治【4節】 現代政治の特質と課題	1 戦後政治と政党 2 選挙と政治意識 3 世論と政治参加	○	○	○		
前期末	第1章 現代の政治【5節】 現代の国際政治	1 国際政治の特質 2 国際社会と国際法 3 国際連合の役割と課題 4 戦後国際関係の展開と日本 5 国際政治の課題 6 地球環境と資源・エネルギー問題 7 国際社会における日本の役割	○	○	○	a. 現代の国内政治及び国際政治に関して、基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。 b. 現代の国内政治及び国際政治から課題を見だし、公正な判断の下、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c. 現代の国内政治及び国際政治に対する関心を高め、民主政治の本質や現代政治の特質、また、国際政治の特質や国際紛争の諸要因を意欲的に追求し、望ましい政治の在り方や主権者としての在り方、また、日本の役割を考察しようとしている。	①授業への関心・意欲(グループワーク等での発言・発表含む) ②課題提出(授業プリント、ワークシート等の取組状況) ③定期考査(ほか小テスト等含む) ④外部模試(進研模試等)
	第2章 現代の経済【1節】 現代の資本主義経済	1 資本主義体制の成立 2 資本主義経済の発展と変容	○	○	○		
	第2章 現代の経済【2節】 現代経済のしくみ	1 経済主体と経済の循環 2 生産のしくみと企業 3 市場経済の機能と限界 4 福利厚生と経済成長 5 金融のしくみと機能 6 財政のしくみと機能	○	○	○		
	第2章 現代の経済【3節】 日本経済の発展と産業構造の変化	1 経済再建から高度成長へ 2 オイルショック後の日本経済 3 日本経済の現状	○	○	○		
後期中間	第2章 現代の経済【4節】 福祉社会と日本経済の課題	1 公害と環境保全 2 消費者問題 3 農業・食料問題 4 中小企業の現状と課題 5 雇用の転換と成長 6 社会保障と福祉	○	○	○	a. 現代の国内政治及び国際政治に関して、基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。 b. 現代の国内政治及び国際政治から課題を見だし、公正な判断の下、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c. 現代の国内政治及び国際政治に対する関心を高め、民主政治の本質や現代政治の特質、また、国際政治の特質や国際紛争の諸要因を意欲的に追求し、望ましい政治の在り方や主権者としての在り方、また、日本の役割を考察しようとしている。	①授業への関心・意欲(グループワーク等での発言・発表含む) ②課題提出(授業プリント、ワークシート等の取組状況) ③定期考査(ほか小テスト等含む) ④外部模試(進研模試等)
	第2章 現代の経済【5節】 国民経済と国際経済	1 貿易と国際収支 2 国際経済体制の展開 3 発展途上の経済 4 地域主義の動き 5 グローバル化する世界経済	○	○	○		
	第3章 現代社会の諸課題【1節】 日本社会の諸課題	1 少子高齢社会における社会保険はどうあるべきか? 2 地域社会を活性化するにはどうすればいいか? 3 どうやって若者の労働環境を改善するか? 4 中小企業の活路はどこに? 5 どうする? 日本の「食」と「農」	○	○	○		
	第3章 現代社会の諸課題【2節】 国際社会の諸課題	1 地球環境にやさしいエネルギーをどう確保するか? 2 経済活動は資源を削減できるか? 3 ノブレス・オブリージュとは何か? 4 地球社会で日本がなすべきことは何か?	○	○	○		
後期末	共通テスト演習 二次試験対策等		○	○	○	a・b・c: 演習問題の取り組みを通して、知識及び技能の定着に専心し、現代の諸課題に関する諸資料を基に思考・判断を深め、課題解決に向けた考察力・構想力を養っている。	①授業への関心・意欲(グループワーク等での発言・発表含む) ②課題提出(授業プリント、ワークシート等の取組状況) ③演習(外部模試含む)の仕上がり・復習状況

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・理解	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・理解	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・理解	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・理解	40	0	40
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	3	教科書	最新 数学Ⅲ(数研出版)
科目	数学Ⅲ	クラス	βコース・理系	副教材	3ROUND 数学Ⅲ(数研出版)
		単位数	3	担当者	佐々木 卓磨

学習目標	① 関数、極限、微分法と積分法の基本的な問題を解くことができる。 ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを世の中の事象に活用し数学的に考察することができる。 ③ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。
学習方法	① 授業において自ら考え、問題解決について取り組む。 ② 授業内容についての課題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ③ 問題演習に取り組む。また、大学入学試験に向けた対策に取り組む。
学習評価	評価の観点 <span style="float:right">当該科目の評価の趣旨</span>
	a 知識及び技能 <span style="float:right">数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。</span>
	b 思考力・判断力・表現力 <span style="float:right">事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けている。</span>
	c 主体的に学習に取り組む態度 <span style="float:right">数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。</span>
定期考査については、上記a, b の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。	

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 関数	分数関数と無理関数	○	○	○	a: 数列や極限について体系的に理解し様々な値が求められる。数列や極限について数学的に捉えて、処理することができる。 b: 数列や関数値の極限について多面的に考察、表現することができる。 c: 数列や関数値の極限に関心を持ち、考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題の取り組み状況 ③確認テスト ④定期考査 ⑤外部模試
		逆関数と合成関数	○	○	○		
	第2章 極限	数列の極限とその計算	○	○	○		
		無限等比数列	○	○	○		
		無限級数	○	○	○		
		関数の極限	○	○	○		
いろいろな関数の極限	○	○	○				
関数の連続性	○	○	○				
前期末	第3章 微分法とその応用	微分係数と導関数	○	○	○	a: 微分法の考え方を理解し、それらの関連から適切に公式を用いて、式や値を求めることができる。微分法を用いて、関数のグラフを書くなど、物事を数学的に表現・処理することができる。 b: 微分係数と導関数の関係を理解し、方程式に表して活用することができる。 c: 微分法の考え方に興味を持ち、それらを具体的な事象に当てはめて考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題の取り組み状況 ③確認テスト ④定期考査 ⑤外部模試
		積・商の導関数	○	○	○		
		合成関数と逆関数の微分法	○	○	○		
		いろいろな関数の導関数	○	○	○		
		2変数関数・媒介変数関数	○	○	○		
		接線の方程式	○	○	○		
		平均値の定理	○	○	○		
		関数の値の変化とグラフ	○	○	○		
方程式、不等式への応用	○	○	○				
速度と加速度・近似値	○	○	○				
後期中間	第4章 積分法とその応用	不定積分とその基本性質	○	○	○	a: 積分法の考え方を理解し、それらの関連から適切に公式を用いて、式や値を求めることができる。積分法を用いて面積や体積を求めるなど、物事を数学的に表現・処理することができる。 b: 置換積分法や部分積分法、区分求積法などの定理を理解し、活用することができる。また、微分法と積分法の関係を理解し活用することができる。 c: 積分法の考え方に興味を持ち、それらを具体的な事象に当てはめて考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題の取り組み状況 ③確認テスト ④定期考査 ⑤外部模試
		置換積分法と部分積分法	○	○	○		
		いろいろな関数の不定積分	○	○	○		
		定積分とその基本性質	○	○	○		
		置換積分法と部分積分法	○	○	○		
		定積分と極限・不等式	○	○	○		
		面積・体積	○	○	○		
速度と道のり・曲線の長さ	○	○	○				
後期末	大学入試問題演習	共通テスト対策 二次試験対策	○	○	○	a・b・c: 共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	①授業態度 ②課題の取り組み状況 ③外部模試

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	15
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	0	35
	思考力・判断力・表現力	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	3	教科書	最新 数学C(数研出版)
科目	数学C	クラス	$\beta$ コース	副教材	3ROUND 数学C(数研出版)
		単位数	2	担当者	菊池 元夢

学習目標	① ベクトル、平面上の曲線と複素数平面の基本的問題を解くことができる。 ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを世の中の事象に活用し数学的に考察することができる。 ③ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。
------	---

学習方法	① 授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ② 授業内容についての課題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ③ 演習問題に取り組む。また、入試過去問題等を用いて受験に向けた対策を行う。
------	---

学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識及び技能	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
定期考査については、上記a, b の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 ベクトル	ベクトルの基本性質	○		○	a: ベクトルの性質について理解し、適切に処理することができる。ベクトルの四則演算を図示することができる。図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。 b: ベクトルの図形的意味を考え、考察することができる。 c: ベクトルの演算や内積の図形的意味に興味をもち、有用性を考えることができる。 a: 空間ベクトルの性質について理解し、適切に処理することができる。図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。 b: ベクトルを空間へ拡張して考察できる。 c: 3次元空間や球面の方程式に興味をもち、一般的な考察をしようとする。	①課題提出 (1)提出状況 (2)取組状況 ②確認テスト ③定期考査 ④外部模試
		ベクトルの和、差	○		○		
		ベクトルの実数倍	○		○		
		ベクトルの成分と演算	○		○		
		ベクトルの内積	○	○	○		
		内積の性質	○		○		
	第2節 ベクトルと平面図形	位置ベクトル	○	○	○		
		ベクトルと図形		○	○		
		空間の座標	○		○		
		空間のベクトル	○		○		
第1章 ベクトル	空間のベクトル	○		○			
	ベクトルの成分と演算	○		○			
	位置ベクトル	○	○	○			
	空間図形への応用		○	○			

前期末	第2章 複素数平面	複素数平面・和と差	○		○	a: 複素数平面の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、様々な式や値を求めることができる。式の特徴及び複素数平面を的確に捉えて適切に定理・公式を用いて処理したり、推論することができる。 b: 複素数平面における図形の移動などと関連付けて複素数の演算や累乗根などの意味を考察することができる。 c: 式の演算や性質及び複素数平面に関心をもち、具体的な事象の考察に積極的に活用しようとする。	①課題提出 (1)提出状況 (2)取組状況 ②確認テスト ③定期考査 ④外部模試
		複素数の極形式	○	○	○		
		ド・モアブルの定理	○	○	○		
		複素数と平面図形	○	○	○		
後期中間	第3章 式と曲線	放物線・楕円・双曲線	○	○	○	a: 放物線や楕円、双曲線の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、様々な式や値を求めることができる。式及びグラフの特徴を的確に捉えて適切に定理・公式を用いて処理することができる。 b: 放物線や楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察することができる。 c: 式の演算や性質及び2次曲線に関心をもち、具体的な事象の考察に積極的に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③外部模試
		2次曲線の平行移動	○	○	○		
		2次曲線と直線	○	○	○		
		曲線の媒介変数表示	○	○	○		
		極座標と極方程式		○	○		
		コンピュータと曲線		○	○		
後期末	大学入試問題演習	共通テスト対策 二次試験対策	○	○	○	①授業態度 ②課題提出 ③外部模試	

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	0	35
	思考力・判断力・表現力	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	3年	教科書	最新 数学Ⅰ、最新 数学A、最新 数学Ⅱ、最新 数学B、最新 数学C（数研出版）
科目	応用数学	クラス	βコース・文系	副教材	攻略！共通テスト 数学Ⅰ・A / Ⅱ・B・C（東京書籍） 2026大学入学共通テスト直前実践問題集 数学ⅠAプレノート Full（数研出版） 2026大学入学共通テスト直前実践問題集 数学ⅡBCプレノート Full（数研出版） 2026大学入学共通テスト総合問題集 数学ⅠA（河合出版） 2026大学入学共通テスト総合問題集 数学ⅡBC（河合出版）等
		単位数	3	担当者	菊池 元夢

学習目標	① 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを世の中の事象に活用し数学的に考察することができる。 ② 数学的な見方や考え方のよさを認識し、仲間と協力してよりよく問題を解決することができる。 ③ 大学入試に向けて、既習内容を復習し、センター試験や二次試験などの受験問題に対応できるようになる。
------	---

学習方法	① 授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ② 授業内容についての課題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ③ 演習問題に取り組む。また、入試過去問題等の研究を行う。
------	--

学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識及び技能	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
定期考査については、上記a, b の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B 補充演習 応用演習	各種個別学力試験に対応した問題演習	○	○	○	a: 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、それを演算に用いたり、解を求めることができる。事象の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。また、数学的に表現・処理したり、推論するなど、よりよく問題を解決することができる。 b: 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、式の特徴や関係を考察することができる。 c: 数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づき、具体的な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③確認テスト ④定期考査 ⑤外部模試
前期末	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B 補充演習 応用演習	各種個別学力試験に対応した問題演習	○	○	○	a: 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、それを演算に用いたり、解を求めることができる。事象の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。また、数学的に表現・処理したり、推論するなど、よりよく問題を解決することができる。 b: 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、式の特徴や関係を考察することができる。 c: 数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づき、具体的な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③確認テスト ④定期考査 ⑤外部模試
後期中間	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C 補充演習 応用演習	各種個別学力試験に対応した問題演習	○	○	○	a: 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、それを演算に用いたり、解を求めることができる。事象の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。また、数学的に表現・処理したり、推論するなど、よりよく問題を解決することができる。 b: 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、式の特徴や関係を考察することができる。 c: 数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づき、具体的な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③確認テスト ④定期考査 ⑤外部模試
後期末	大学入試問題演習	共通テスト対策 二次試験対策	○	○	○	a・b・c: 共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	①授業態度 ②課題提出 ③外部模試

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	0	35
	思考力・判断力・表現力	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	3	教科書	物理(数研出版)
科目	物理	クラス	βコース・理系	副教材	チェック&演習 物理(数研出版)
		単位数	5	担当者	佐々木 倫郎

学習目標	物理の授業を通して、次のことができるようになる。 ○物理的な事象・現象に興味・関心をもち、探求心を高める。 ○基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 ○目的意識をもって実験・観察などを行い、探求する能力と態度を身に付ける。 ○物理基礎の学習を進展させ、科学的な自然観の育成をはかる。				
学習方法	○授業において自ら考え、また、周りの生徒と協働して考える活動を行う。 ○ノートを作成し、授業内容についての課題や演習問題に取り組む。 ○実験、観察器機、器具などの基本操作を学ぶ。 ○基礎・基本問題に繰り返し取り組む。				
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨			
	a 知識及び技能	自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。			
	b 思考力・判断力・表現力	自然の事象・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	自然の事象・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。			
定期考査については、上記a, b の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 力と運動	平面内の運動	○	○	○	a 速度・加速度、落体の運動について理解している。 b 速度・加速度、落体の運動について思考・判断・表現できる。 c 速度・加速度、落体の運動について関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査 ⑦外部模試
		剛体	○	○	○	a 剛体にはたらく力のつり合い、重心について理解している。 b 剛体にはたらく力のつり合い、重心について思考・判断・表現できる。 c 剛体にはたらく力のつり合い、重心について関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	
		運動量保存の法則	○	○	○	a 力積と運動量保存則、反発係数について理解している。 b 力積と運動量保存則、反発係数について思考・判断・表現できる。 c 力積と運動量保存則、反発係数について関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	
		円運動と万有引力	○	○	○	a 等速円運動・慣性力・単振動・万有引力について理解している。 b 等速円運動・慣性力・単振動・万有引力について思考・判断・表現できる。 c 等速円運動・慣性力・単振動・万有引力について関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	
前期末	第2編 熱と気体	熱と気体	○	○	○	a 気体分子の運動、気体の状態変化について理解している。 b 気体分子の運動、気体の状態変化について思考・判断・表現できる。 c 気体分子の運動、気体の状態変化について関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査 ⑦外部模試
	第3編 波	波の伝わり方	○	○	○	a 波と媒質の運動、正弦波の式について理解している。 b 波と媒質の運動、正弦波の式について思考・判断・表現できる。 c 波と媒質の運動、正弦波の式について関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	
		音の伝わり方	○	○	○	a 音の伝わり方、ドップラー効果について理解している。 b 音の伝わり方、ドップラー効果について思考・判断・表現できる。 c 音の伝わり方、ドップラー効果について関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	
		光	○	○	○	a 光の伝わり方、回折・干渉について理解している。 b 光の伝わり方、回折・干渉について思考・判断・表現できる。 c 光の伝わり方、回折・干渉について関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	
第4編 電気と磁気	電場	○	○	○	a 電場と電位、コンデンサーについて理解している。 b 電場と電位、コンデンサーについて思考・判断・表現できる。 c 電場と電位、コンデンサーについて関心をもち、意欲的に取り組んでいる。		

後期中間	第4編 電気と磁気	電流	○	○	○	a オームの法則と直流回路について理解している。 b オームの法則と直流回路について思考・判断・表現できる。 c オームの法則と直流回路について関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査 ⑦外部模試
		電流と磁場	○	○	○	a 磁場と電流が磁場から受ける力について理解している。 b 磁場と電流が磁場から受ける力について思考・判断・表現できる。 c 磁場と電流が磁場から受ける力について関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	
		電磁誘導と電磁波	○	○	○	a 電磁誘導と交流、電磁波について理解している。 b 電磁誘導と交流、電磁波について思考・判断・表現できる。 c 電磁誘導と交流、電磁波について関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	
後期末	第5編 原子	電子と光	○	○	○	a 電子と光の粒子性について理解している。 b 電子と光の粒子性について思考・判断・表現できる。 c 光電子と光の粒子性について関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤外部模試
	第5編 原子	原資と原子核	○	○	○	a 原子構造と放射線について理解している。 b 原子構造と放射線について思考・判断・表現できる。 c 原子構造と放射線について関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	
後期末	入試に向けた問題演習	共通テスト対策 二次試験対策	○	○	○	a・b・c: 共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	0	35
	思考力・判断力・表現力	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	3	教科書	化学(数研出版)
科目	化学	クラス	$\beta$ コース・理系	副教材	セミナー-化学基礎+化学(第一学習社) チェック&演習 化学(数研出版)
		単位数	5	担当者	堤 友理江

学習目標	<p>化学の授業を通して、次のことができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○化学的な事象・現象に興味・関心をもち、探求心を高める。</li> <li>○基本的な概念や原理・法則の理解を深める。</li> <li>○目的意識を持って実験・観察などを行い、探求する能力と態度を身に付ける。</li> <li>○化学基礎の学習を進展させ、科学的な自然観の育成をはかる。</li> </ul>	
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業において自ら考え、また、周りの生徒と協働して考える活動を行う。</li> <li>○授業内容についての演習問題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。</li> <li>○実験器機、器具などの基本操作ができる。</li> <li>○基礎・基本問題に繰り返し取り組む。</li> </ul>	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	自然の事象・現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
	c 主体的に学習に取り組む態度	自然の事象・現象に関心や探求心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 物質の状態	固体の構造 物質の状態変化 溶液	○	○	○	a 物質の状態とその変化、溶液と平衡について理解している。 b 物質の状態とその変化、溶液と平衡における規則性や関係性を見だして説明することができる。 c 日常生活の中の物質の状態について興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査 ⑥外部模試
	第2編 物質の変化	化学反応とエネルギー 化学平衡	○	○	○	a 化学反応とエネルギー、化学反応と化学平衡について理解している。 b 化学反応とエネルギー、化学反応と化学平衡における規則性や関係性を見だして説明することができる。 c 日常生活の中の物質の変化について興味・関心をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査 ⑥外部模試
前期末	第3編 無機物質	非金属元素 金属元素	○	○	○	a 無機物質の性質について理解している。 b 典型元素、遷移元素の性質における規則性や関係性を見だして説明することができる。 c 日常生活の中の無機物質について興味・関心をもつ。	

後期中間	第4編 有機化合物	脂肪族炭化水素 芳香族化合物	○	○	○	a 有機化合物の性質について理解している。 b 有機化合物における規則性や関係性を見だして説明することができる。 c 日常生活の中の有機化合物について興味・関心をもっている。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査 ⑥外部模試
	第5編 高分子化合物	天然高分子化合物 合成高分子化合物	○	○	○	a 高分子化合物の性質について理解している。 b 高分子化合物の性質における規則性や関係性を見だして説明することができる。 c 日常生活の中の高分子化合物について興味・関心を持っている。	
後期末	共通テスト対策	問題演習	○	○	○	共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	①授業態度 ②演習プリント ③課題 ④小テスト ⑤外部模試

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	0	35
	思考力・判断力・表現力	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	3	教科書	化学基礎(数研出版)
科目	化学特講	クラス	βコース・文系	副教材	セミナー化学基礎+化学(第一学習社) チェック&演習 化学基礎(数研出版)
		単位数	2	担当者	堤 友理江

学習目標	化学特講の学習を通して、化学基礎で扱った内容を発展させ、次のことができるようになる。 ○物質とその変化を本質的に理解する。 ○観察、実験などを行い、物質とその変化を科学的に探究する力を養う。 ○物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
学習方法	○授業において自ら考え、また、周りの生徒と協働して考える活動を行う。 ○授業内容についての演習問題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ○実験器機、器具などの基本操作ができる。 ○基礎・基本問題に繰り返し取り組む。				
学習評価	評価の観点		評価の趣旨		
	a 知識及び技能	物質の構成や変化に関する概念や法則についての知識を身に付けている。			
	b 思考力・判断力・表現力	物質の構成や変化を化学式や法則を用いて表現している。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	身近な物質や現象に着目し、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。			
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 物質の構成と化学結合 第2編 物質の変化	各種個別学力試験に対応した問題演習	○	○	○	a 物質の構成や変化に関する概念や法則について理解している。 b 物質の構成や変化を化学式や法則を用いて説明することができる。 c 身のまわりの物質の構成や変化について興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査 ⑥外部模試
	第1編 物質の構成と化学結合 第2編 物質の変化	各種個別学力試験に対応した問題演習	○	○	○	a 物質の構成や変化に関する概念や法則について理解している。 b 物質の構成や変化を化学式や法則を用いて説明することができる。 c 身のまわりの物質の構成や変化について興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査 ⑥外部模試

後期中間	第1編 物質の構成と化学結合 第2編 物質の変化	各種個別学力試験に対応した問題演習	○	○	○	a 物質の構成や変化に関する概念や法則について理解している。 b 物質の構成や変化を化学式や法則を用いて説明することができる。 c 身のまわりの物質の構成や変化について興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査 ⑥外部模試
後期末	共通テスト対策	問題演習	○	○	○	a 物質の構成や変化に関する概念や法則について理解している。 b 物質の構成や変化を化学式や法則を用いて説明することができる。 c 身のまわりの物質の構成や変化について興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤外部模試

### 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	0	35
	思考力・判断力・表現力	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	3	教科書	生物基礎(数研出版)
科目	生物特講	クラス	βコース・文系	副教材	チェック&演習 生物基礎(数研出版)
		単位数	2	担当者	佐々木 倫郎

学習目標	生物特講の学習を通して、生物基礎で扱った内容を発展させ、次のことができるようになる。 ○身の周りの生命現象に興味・関心をもつことができる。 ○グループ学習を通し、自ら調べるとともに他と協力しながら学習内容を深めることができる。 ○実験・観察を通し、探求の過程を身に付けることができる。				
学習方法	○授業において自ら考え、また、周りの生徒と協働して考える活動を行う。 ○授業内容についての演習問題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ○実験器機、器具などの基本操作ができる。 ○基礎・基本問題に繰り返し取り組む。				
学習評価	評価の観点	評価の趣旨			
	a 知識及び技能	生物や生命現象に関する概念や法則についての知識を身に付けている。			
	b 思考力・判断力・表現力	生物や生命現象を科学的にとらえて表現している。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	身のまわりの生物や生命現象に着目し、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。			
定期考査については、上記 a, bの観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 生物の特徴	各種個別学力試験 に対応した問題演習	○	○	○	a 生物や生命現象に関する概念や法則について理解している。 b 生物や生命現象を科学的にとらえて説明することができる。 c 身のまわりの生物や生命現象に興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第2編 ヒトの体内環境の維持						
第3編 生物の多様性と生態系							
前期末	第1編 生物の特徴	各種個別学力試験 に対応した問題演習	○	○	○	a 生物や生命現象に関する概念や法則について理解している。 b 生物や生命現象を科学的にとらえて説明することができる。 c 身のまわりの生物や生命現象に興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第2編 ヒトの体内環境の維持						
第3編 生物の多様性と生態系							
後期中間	第1編 生物の特徴	各種個別学力試験 に対応した問題演習	○	○	○	a 生物や生命現象に関する概念や法則について理解している。 b 生物や生命現象を科学的にとらえて説明することができる。 c 身のまわりの生物や生命現象に興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第2編 ヒトの体内環境の維持						
第3編 生物の多様性と生態系							
後期末	共通テスト対策	問題演習	○	○	○	a 物質の構成や変化に関する概念や法則について理解している。 b 物質の構成や変化を化学式や法則を用いて説明することができる。 c 身のまわりの物質の構成や変化について興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④外部模試
	振り返り						

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	0	35
	思考力・判断力・表現力	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	保健体育	学年	3	教科書	現代高等保健体育(大修館)
科目	体育	クラス	βコース	副教材	
		単位数	2	担当者	田中 詔 洸・狐崎 亜実

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各運動における基本的な技術やルール、特性を理解し、安定して発揮し、状況に応じて使い分けず</li> <li>○運動の課題を発見し、解決に向けて練習方法や戦術を工夫し、考えたことを他者に伝える。</li> <li>○積極的に運動に取り組み、継続し、協力・公正・責任といった態度を身に着ける。</li> </ul>
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動の合理的、計画的な実践を通して、知識、技能を高める。</li> <li>○ペアやチームでの活動を通して、仲間と協力したり交流したりする。</li> <li>○教科書や副教材などから、競技のルールや健康、安全面についての理解を深める。</li> </ul>

評価の観点		当該科目の評価の趣旨
学習評価	a 知識及び技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。
	c 主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとする。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	A 体づくり運動	体づくりの運動 実生活に生かす運動の計画 集団行動	○	○	○	a 運動を継続する意義、体力の構成要素、運動の原則を理解している。 b 自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。 c 体づくり運動に主体的に取り組んでいる。健康・安全を確保しようとする。	観察 学習カード
	C 陸上競技	短距離走 跳躍 投てき	○	○	○	a 体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、各種目の技術を身に付けている。 b 課題解決の過程を通じ、取り組み方を工夫し、自己や仲間の考えを他者に伝える。 c 主体的に取り組むルールやマナーと大切にしようとする。自己の責任を果たそうとする。	観察 スキルテスト 学習カード
前期末	E 球技 ア:ゴール型	バスケットボール	○	○	○	技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 a 安定したボール操作と空間を作る動きでゴール前への侵入などから攻防をする。 b 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 c 主体的に取り組むフェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。 一人一人の違いに応じたプレイを大切にしている。互いに助け合おうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード
	E 球技 イ:ネット型	バレーボール	○	○	○	技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 a 安定したボールや用具の操作と連携した動きで空いた場所をめぐる攻防ができる。 b 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 c 主体的に取り組むフェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。 一人一人の違いに応じたプレイを大切にしている。互いに助け合おうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード
	H 体育理論 3 豊かなスポーツライフの設計	1 生涯スポーツの見方・考え方 2 ライフスタイルに応じたスポーツ	○	○	○	a スポーツは多様な楽しみ方があり、欲求などによっても変化することを理解している。 ライフスタイルに応じた運動の機会を生み出す工夫の仕方理解している。 b 比較したり、分類したり、分析したり、まとめたりするなどして、判断し、説明している。 c 学習の内容について、理解したことを言ったり書き出したりしている。	観察 提出物 筆記テスト
後期中間	G ダンス ウ:現代的なリズム	現在のリズムダンス グループ学習	○	○	○	a リズムの特徴を捉え、変化やまとまりを付け、リズムに乗り全身で踊ることができる。 b 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 c ダンスに主体的に取り組んでいる。	観察 学習カード 発表会
	E 球技 ア:ゴール型	サッカー	○	○	○	技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 a 安定したボール操作と空間を作る動きでゴール前への侵入などから攻防をする。 b 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 c 主体的に取り組むフェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。 一人一人の違いに応じたプレイを大切にしている。互いに助け合おうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード
	E 球技 ウ:ベースボール型	ソフトボール	○	○	○	a バット操作と走塁での攻撃、ボール操作と状況に応じた守備によって攻防ができる。 b 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 c 主体的に取り組むフェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。 一人一人の違いに応じたプレイを大切にしている。互いに助け合おうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード
	H 体育理論 3 豊かなスポーツライフの設計	3 スポーツを推進する取組 4 豊かなスポーツライフの創造	○	○	○	a スポーツの推進は様々な施策や組織、人々の支援・参画によって支えられていることを理解している。 スポーツの「する、みる、支える、知る」などの関わり方を理解している。 b 比較したり、分類したり、分析したり、まとめたりするなどして、判断し、説明している。 c 学習の内容について、理解したことを言ったり書き出したりしている。	観察 提出物 筆記テスト
後期末	E 球技 イ:ネット型	卓球 バドミントン	○	○	○	技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 a 安定したボールや用具の操作と連携した動きで空いた場所をめぐる攻防ができる。 b 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 c 主体的に取り組むフェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。 一人一人の違いに応じたプレイを大切にしている。互いに助け合おうとしている。	観察 学習カード
	H 体育理論 3 豊かなスポーツライフの設計	振り返り 筆記テスト	○	○	○	a 学習内容を踏まえたスポーツライフの設計ができていない。 b スポーツライフの設計の仕方について課題を発見し、解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝えること。 c 学習に主体的に取り組んでいる。	観察 提出物 筆記テスト

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
前期末	知識及び技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期中間	知識及び技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期末	知識及び技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40

# 令和8年度 年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	外国語	学年	3	教科書	Power On English Communication III
科目	コミュニケーション英語 III	クラス	βコース	副教材	クワン チャンクで英単語Basic (三省堂) 大学入学共通テスト英語[リーディング]対策 Reach 80(英誠社) 大学入学共通テスト英語[リスニング]対策 Reach 90(英誠社)
		単位数	4	担当者	北村 ちひろ

学習目標	<b>コミュニケーション英語Ⅲの授業を通して次のことができるようにする。</b> ①必要な情報を聞いたり、読んだりして、相手の意図を把握したり、概要、要点を理解することができる。 ②基本的な語句や文を用いて、情報や考え、意見を表現したり、伝えあったりすることができる。 ③グループワーク・ペアワーク等を通して相手のことを思いやった英語発信をすることができる。 ④日々の単語学習やペア・グループでのやりとり、発表などの活動に積極的に取り組むことができる。				
学習方法	①毎時のゴールに向かい見通しをもって学習に取り組む。 ②ゴール達成のために必要な知識・技能や理解・表現力などを養うために4技能を統合して学習する。 ③積極的に英語を用いてペア・グループでの言語活動に取り組む。 ④日々の単語学習やワークブックを用いての授業内容の復習を徹底する。				
学習評価	当該科目の評価の趣旨				
	評価の観点				
	a 知識・技能	外国語の語彙や表現を理解し、活用できる技能を身に付けている。			
	b 思考・判断・表現	外国語で情報や考え、相手の意図を理解したり、適切に表現したり伝え合ったりしている。			
c 主体的に学習に取	外国語での言語活動を積極的にに行い、コミュニケーションを図ろうとしている。				
定期考査については、上記a, b の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	Lesson1 Library of the Future	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 分詞構文、関係副詞whereを用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 最近の図書館の実情について、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: 最近の図書館の実情について、対話やスピーチを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Lesson2 History Maker Otani Shohei	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 現在完了進行形、be to不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 大谷選手についての英文を読み、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: 大谷選手について、対話やスピーチを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Lesson3 Zoo Dentists: How They Work for Zoo Animals	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 比較、使役の表現を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 動物の治療について読み、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: 動物の治療について、対話やスピーチを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
前期末	Lesson4 Nature Photographer in Alaska	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 関係代名詞のwhat、非制限用法を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 松本紀生さんのメッセージを読み、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: 松本紀生さんのメッセージについて、対話やスピーチを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Lesson5 A Science Award That Makes You Laugh, and Then Think	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 過去完了進行形、受け身を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: イグ・ノーベル賞の研究に関する英文を読み、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: イグ・ノーベル賞の研究に関する記事について、対話やスピーチを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Lesson6 Where Does Halloween Come from?	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 追加のディスコースマーカーを用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: ハロウィーンの期原や歴史について読み、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: ハロウィーンの期原や歴史について、対話やスピーチを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
後期中間	Lesson7 Will 3D Printing Technology Change the World?	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 事実、意見を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 3Dプリンターに関する英文を読み、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: 3Dプリンターに関する英文を読み、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Lesson8 A Conductor of the Underground Railroad	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 時間順序のディスコースマーカーを用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 地下鉄道に関する英文を読み、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: 地下鉄道の記事について、対話やスピーチを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Lesson9 English, Always Growing	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 列挙のディスコースマーカーを用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 英語の歴史や語形成に関する英文を読み、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: 英語の歴史や語形成に関する記事について、対話やスピーチを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Lesson10 Understanding the Culture of Dogs	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 追加のディスコースマーカーを用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 犬の習性とその文化について、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: 犬の習性とその文化について、対話やスピーチを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
後期末	大学入試問題演習	大学入学 共通テスト対策 二次試験対策	○	○	○	共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	①授業内テスト ②外部模試

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	40	25	15
	思考・判断・表現	40	25	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
	合計	100	50	50
前期末	知識・技能	40	25	15
	思考・判断・表現	40	25	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
	合計	100	50	50
後期中間	知識・技能	40	25	15
	思考・判断・表現	40	25	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
	合計	100	50	50
後期末	知識・技能	40	0	40
	思考・判断・表現	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
	合計	100	0	100

# 令和8年度 年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	外国語	学年	3	教科書	EARTHRISE English Logic and Expression III Standard(数研出版)
科目	論理表現Ⅲ	クラス	βコース	副教材	EARTHRISE English Logic and Expression III Standardワークブック(数研出版)
		単位数	2	担当者	北村 ちひろ

学習目標	<p><b>論理・表現Ⅲの授業を通して次のことができるようにする。</b></p> <p>①日常的な話題や社会的な話題について、目的や場面、状況に応じて適切に話して伝えることができる。</p> <p>②日常的な話題や社会的な話題について、目的や場面、状況に応じて適切に書いて伝えることができる。</p> <p>③グループワーク・ペアワーク等を通して相手のことを思いやった英語発信をすることができる。</p> <p>④ペア・グループでのやりとり、発表などの活動に積極的に取り組むことができる。</p>								
学習方法	<p>①毎時のゴールに向かい見直しをもって学習に取り組む。</p> <p>②ゴール達成のために必要な知識・技能や理解・表現力などを養うために4技能を統合して学習する。</p> <p>③積極的に英語を用いてペア・グループでの言語活動に取り組む。</p> <p>④ワークブックを用いての授業内容の復習を徹底する。</p>								
学習評価	<table border="1"> <tr> <th>評価の観点</th> <th>当該科目の評価の趣旨</th> </tr> <tr> <td>a 知識・技能</td> <td>外国語の語彙や表現を理解し、活用できる技能を身に付けている。</td> </tr> <tr> <td>b 思考・判断・表現</td> <td>外国語で情報や考え、相手の意図を理解したり、適切に表現したり伝え合ったりしている。</td> </tr> <tr> <td>c 主体的に学習に取り組む態度</td> <td>外国語での言語活動を積極的にに行い、コミュニケーションを図ろうとしている。</td> </tr> </table>	評価の観点	当該科目の評価の趣旨	a 知識・技能	外国語の語彙や表現を理解し、活用できる技能を身に付けている。	b 思考・判断・表現	外国語で情報や考え、相手の意図を理解したり、適切に表現したり伝え合ったりしている。	c 主体的に学習に取り組む態度	外国語での言語活動を積極的にに行い、コミュニケーションを図ろうとしている。
	評価の観点	当該科目の評価の趣旨							
	a 知識・技能	外国語の語彙や表現を理解し、活用できる技能を身に付けている。							
	b 思考・判断・表現	外国語で情報や考え、相手の意図を理解したり、適切に表現したり伝え合ったりしている。							
c 主体的に学習に取り組む態度	外国語での言語活動を積極的にに行い、コミュニケーションを図ろうとしている。								
定期考査については、上記a, bの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。									

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	Part 1 Lesson1 New Year's celebration	文法 リスニング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 年中行事などでの食文化について、適切に伝える技能を身に付けている。 b: 年中行事などでの食文化について、適切に話したり書いたりして伝えている。 c: 年中行事などでの食文化について、相手に積極的に伝えようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Part 1 Lesson2 Working and studying online	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: オンライン授業について、適切に伝える技能を身に付けている。 b: オンライン授業について、適切に話したり書いたりして伝えている。 c: オンライン授業について、相手に積極的に伝えようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Part 1 Lesson3 Recreation	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 友人と一緒にしたいことについて、適切に伝える技能を身に付けている。 b: 友人と一緒にしたいことについて、適切に話したり書いたりして伝えている。 c: 友人と一緒にしたいことについて、相手に積極的に伝えようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Part 1 Lesson4 Open campus	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: オープンキャンパスについて、適切に伝える技能を身に付けている。 b: オープンキャンパスについて、適切に話したり書いたりして伝えている。 c: オープンキャンパスについて、相手に積極的に伝えようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
前期末	Part 1 Lesson5 Places to buy lunch	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 昼食を買うおすすめの場所について、適切に伝える技能を身に付けている。 b: 昼食を買うおすすめの場所について、適切に話したり書いたりして伝えている。 c: 昼食を買うおすすめの場所について、相手に積極的に伝えようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Part 1 Lesson6 A helping hand	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 困っている人を助けたことについて、適切に伝える技能を身に付けている。 b: 困っている人を助けたことについて、適切に話したり書いたりして伝えている。 c: 困っている人を助けたことについて、相手に積極的に伝えようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Part 1 Lesson7 Online shopping	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: オンラインショッピングについて、適切に伝える技能を身に付けている。 b: オンラインショッピングについて、適切に話したり書いたりして伝えている。 c: オンラインショッピングについて、相手に積極的に伝えようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Part 1 Lesson8 Sharing information	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 電子機器での情報共有について、適切に伝える技能を身に付けている。 b: 電子機器での情報共有について、適切に話したり書いたりして伝えている。 c: 電子機器での情報共有について、相手に積極的に伝えようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
後期中間	Part 1 Lesson9 Fixing dates	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 予定変更について、適切に伝える技能を身に付けている。 b: 予定変更について、適切に話したり書いたりして伝えている。 c: 予定変更について、相手に積極的に伝えようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Part 1 Lesson10 Work experience programs	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 職業体験について、適切に伝える技能を身に付けている。 b: 職業体験について、適切に話したり書いたりして伝えている。 c: 職業体験について、相手に積極的に伝えようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Part 2 Lesson 1 Electronic devices	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 資料に基づき、電化製品について、適切に伝える技能を身に付けている。 b: 資料に基づき、電化製品について、適切に話したり書いたりして伝えている。 c: 資料に基づき、電化製品について、相手に積極的に伝えようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
	Part 2 Lesson 2 Travel advertisement	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 資料に基づき、観光地について、適切に伝える技能を身に付けている。 b: 資料に基づき、観光地について、適切に話したり書いたりして伝えている。 c: 資料に基づき、観光地について、相手に積極的に伝えようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト ⑤外部模試
後期末	大学入試問題演習	大学入学 共通テスト対策 二次試験対策	○	○	○	共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	①授業テスト ②外部模試

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	40	25	15
	思考・判断・表現	40	25	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
前期末	知識・技能	40	25	15
	思考・判断・表現	40	25	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
後期中間	知識・技能	40	25	15
	思考・判断・表現	40	25	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
後期末	知識・技能	40	0	40
	思考・判断・表現	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20